

平成29年度 新潟県少年の主張大会

村上・岩船地区大会

田中 心 たなか しん

最優秀賞

平林中学校3年生

僕のウルトラマン

「僕の夢は、ウルトラマンです！」

小さな子どもの発言ではありません。進路相談で僕は、意を決してそう話しました。

ウルトラマンの制作に携わること……それは、幼い頃から僕が抱いていた夢でした。脚本やセットの制作、撮影や造形など、とにかく、ウルトラマンに関わる仕事がしたいという思いが、大きくなるにつれてどんどん増してきました。ウルトラマンは僕にとって、正義を貫き、弱いものを助ける、優しさや強さを兼ね備えた一番のヒーローなのです。幼い頃からウルトラマンを見て、たくさんの勇気と希望をもらいました。そして「ウルトラマンになりたい！」という幼い夢は、いつしか「ウルトラマンを作りたい！」という現実的なものに変わっていったのです。

しかし、ウルトラマンを制作したいというこの夢を、僕はなかなか人に言うことができませんでした。恥ずかしかったのです。だって、言えば「幼い」とか「非現実的」と言われて笑われると思ったからです。特に中学に入ってから、ずっと自分の胸にしまっていました。

そんな僕も中学三年生になり、担任の先生と進路相談をする中で、やはりウルトラマンのことを先生に言えずにいました。すると担任の先生は、「夢を曲げずに持ち続けている人がいたら、それはすごい人だ。」と話してくれました。僕はなんだか、自分の存在が認められたような気がして、初めて自分の夢を話しました。先生は真剣に話を聞き、そして僕の夢をかなえるために、どのような進路選択が必要か一緒に考えてくれました。

理解者は身近なところにもいました。両親です。僕の両親はウルトラマ



「人に理解され、認められることで、人は勇気や自信を得ることができる」

ンに夢中になっている僕に、本やフィギュアを与えてくれました。「好きなことをするために、たくさん勉強しろよな。」それが父の口癖でした。兄弟と一緒にフィギュアで遊んだり、本を見ながらウルトラマンの話をしたりしたのも、僕の中で夢を膨らます大切な時間だった気がします。

実は一口に「ウルトラマン」と言っても、初代「ウルトラマン」から現在放送されているものまで、四十種類以上あるのですが、昭和のウルトラマンは、「地球を侵略する宇宙人や怪獣からみんなを守る」という勧善懲悪がテーマでした。しかし、番組が進むにつれて、ウルトラマンでも太刀打ちできない強大な敵が登場するようになってきました。なんと僕たちを守ってくれるはずのウルトラマンが、負けるのです。

僕が心打たれたのは、まさにこのような場面でした。ウルトラマンを支援する特殊部隊の人たちをはじめ、一般人たちまでもがウルトラマンを励まし、支え、そして新たな力を与えてくれたのです。

人は誰かに応援されることで強くなれます。僕も今まで、家族や友人、先生方に認められ、励まされて自信を深めてきました。画面に描かれているウルトラマンの姿は、人が成長する姿そのものを映し出しているような気がするのです。『人間通』という本には、「理解され、認められれば、その心豊かな自覚を梃子として、誰もが勇躍して励む。」と記されていました。そうです。人に理解され、認められることで、人は勇気や自信を得ることができるのです。心が強くなるのです。僕は、夢を持ち続けたことで、人の優しさや温かさに出会いました。誰一人として自分を否定しなかったこの環境を、僕は幸せに思います。

将来、僕が作るウルトラマンが、幼い子どもたちに勇気を与え、人間として大切なものを伝えることができたら……そんな思いに突き動かされ、今僕は、はっきりとした道を歩き始めました。



小田 萌恵



優秀賞

村上中等教育中学校3年生

人々が互いに仲良く暮らすには自分はいじめや人権差別について関心を持っている。世界で戦争や人権差別をなくすためにも、私たちは広い視野を持たねばならない。

近ののの



奨励賞

神納中学校1年生

自分を変える

消極的でおとなしい性格だった自分は、中学校に入学し、積極的に周囲に話しかけようと決意したことで、たくさんの人と話すことができるようになった。決意したことは、行動に移すのが良い。

大滝 謙祐



奨励賞

山北中学校3年生

妥協はしない

生徒会長でも間違いはあるし、できないこともたくさんある。完璧にはできないまでも、掲げた目標を達成するために、安易に妥協せずに取り組んでいきたい。

小池 夏未



奨励賞

朝日中学校3年生

言葉で伝えること

3年間の中学校生活で、部活動や友だち・家族と関わる体験を通して「言葉の大切さ」を学んだ。

山田 千智



奨励賞

村上東中学校2年生

日本文化のよさは

海外の人の目を通して、改めて日本食のすばらしさや四季の自然、礼儀の大切さに気づいた。日本ならではの文化や習慣を守り継いでいきたい。

近藤 陽菜



奨励賞

荒川中学校3年生

「笑う」ということ

「笑い」や「笑顔」は、気持ちや行動にも大きな影響を与える。積極的に「良い笑い」を生かし、充実した日々を過ごしていきたい。

富樫 悠姫



奨励賞

村上第一中学校3年生

失わないために

祖父の死で、命の大切さや失ったものへの感謝の気持ちについて考えた。今ある「もの」や「人」を大切にしたい。

鈴木 皆斗



奨励賞

岩船中学校3年生

米一粒は一人の命

学校生活や自分で調べたことを通して、食への感謝の気持ちをもつことが、いかに大切なことであるかわかった。

平 成

成29年度新潟県少年の主張大会くわたしの主張く村上・岩船地区大会が、8月19日(土)に教育情報センターで開催されました。

郡市内各中学校の代表11人が、日常生活を送る中での感じたことや考え、感銘を受けた経験を通して自分の主張を堂々と発表。審査時間中のアトラクションでは、岩船・神納・山北・関川中学校の吹奏楽部が合同で、すばらしい演奏を披露してくれました。

審査委員長を務めた鈴木正美さん(村上市岩船郡校長会副会長)は「中学生らしく、自分の考え方や行動を見直すような内容を主張していた。どの主張も前向きな強い決意が感じられ、私たち大人も学ぶべきことが多い内容でした」と講評。

最優秀賞に選ばれた田中心さんは、9月18日(月・祝)に柏崎市で開催された新潟県大会に、村上・岩船地区の代表として出場し、審査員特別賞を受賞しました。全員の主張は、新潟県のホームページで公開しています。

●問い合わせ

村上地域振興局保健福祉部(村上保健所内) ☎53・8361